

# 2018年度 事業報告

〔 2018年 4月 1日から  
2019年 3月 31日まで 〕



学校法人立教女学院

はじめに

## 2018 年度事業報告にあたって

立教女学院は、2018 年 9 月 1 日に、創立 141 周年を迎えました。キリスト教に基づき、女子を対象とした教育・研究活動を、杉並区久我山のキャンパスにある小学校、中学校、高等学校、短期大学、短期大学附属幼稚園天使園の各校で展開しております。

少子化や社会経済状況等の影響により私立学校を取り巻く環境が一層厳しさを増すなか、短期大学及び附属幼稚園天使園が 2018 年度入学者・入園者からの学生・園児募集停止、2018 年度は天使園最後の卒園生を送りました。短大在校生に対しては卒業まで、従来通りの教育内容の質の維持、支援体制の充実を最優先課題としております。そのような中、多くの関係者の皆さま、保護者、卒業生のお力添え、教職員の努力によって 2018 年度の事業を進めてまいりました。

ここに、2018 年度の事業報告書を作成いたしました。各学校での特色ある教育活動や立教女学院の諸活動のあらましについて本書を通じてお伝えすることで、当学院に対するご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

歴史と伝統の上に立ち、将来を見据え、教育活動を進めていく立教女学院に対して、皆さまのさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

学校法人 立教女学院

### 《目次》

I. 法人の概要 .....	2
II. 事業の概要 .....	6
i. 短期大学 .....	6
ii. 中学校・高等学校 .....	9
iii. 小学校 .....	13
iv. 天使園 .....	16
v. 学院 .....	17
III. 財務の概要 .....	18

## 1. 法人の概要

### 1. 設立目的

本学院は、学校教育を通じて、キリスト教の福音を伝えるという目的の下に、1877年に米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって日本における女子教育の先駆的な事業として創設された。やがて、本学院は立教女学校、立教高等女学院の時代を経て、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短期大学として一貫教育の組織を完備してきた。ここに年を重ねること141年、キリスト教を基盤とする女子教育に足跡を残してきたのであるが、キリスト教教育こそは創設者の理想であり、また今日も他の目標に優先する本学院の教育目的である。

### 2. 沿革

1877年9月1日	立教女学校開校
1908年4月1日	立教高等女学校と改称
1931年4月1日	附属尋常小学校設置
1947年4月1日	高等女学校が中学校、高等学校となり、小・中・高12年間の一貫教育体制確立
1963年4月1日	高等学校に専攻科併設
1967年4月1日	短期大学設立・英語科設置
1970年4月1日	短期大学に幼児教育科設置
1972年4月1日	短期大学に専攻科設置
2008年4月1日	短期大学附属幼稚園天使園設置
2013年4月1日	短期大学に現代コミュニケーション学科設置
2019年3月13日	短期大学附属幼稚園天使園 最後の修了証書授与式

### 3. 設置する学校・学科及び入学定員、学生数の状況

(2018年5月1日現在)

学校	入学定員	収容定員	在籍者数	入学者数	卒業者数
			2018/5/1	2018/5/1	2019/3/31
立教女学院短期大学附属幼稚園天使園	0	40	20	0	20
立教女学院小学校	72	432	428	72	69
立教女学院中学校	180	540	592	203	192
立教女学院高等学校	180	540	555	182	185
立教女学院短期大学	150	750	369	130	334
現代コミュニケーション学科	-	300	137	-	113
幼児教育科	-	300	102	-	92
専攻科幼児教育専攻	150	150	130	130	129
合計	582	2,302	1,964	587	800

### 4. 勤務員数

(2018年5月1日現在)

	教員		職員		校務職員		計		合計
	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	
幼稚園	4	0	0	0	0	0	4	0	4
小学校	24	11	2	1	0	0	26	12	38
中学校	27	15	2	1	0	0	29	16	45
高等学校	29	16	4	0	0	0	33	16	49
短期大学	25	63	10	4	0	0	35	67	102
現代コミュニケーション学科	12	27	6	2	0	0	18	29	47
幼児教育科	13	36	4	2	0	0	17	38	55
法人事務局	0	0	14	4	0	0	14	4	18
合計	109	105	32	10	0	0	141	115	256

(臨時職員・派遣職員等を除く)

## 5. 学校長

学校	学校の長	就任日
立教女学院小学校	佐野 新生	2013年4月1日
立教女学院中学校	田部井 善郎	2016年4月1日
立教女学院高等学校	田部井 善郎	同上
立教女学院短期大学	大江 敏江	2018年7月10日

## 6. 理事・監事

理事・監事の当年度末(2019年3月31日現在)における状況

理事・監事の 区別	選任区分	定数	現員	氏名	常務 理事	常勤・非 常勤の 別	任期	
理事長 院長				糸魚川 順 齋藤 英樹		非常勤 非常勤	4年	
理事 14人以上 17人以内 (現員16人)	1号	日本聖公会東京教区主教	1人	1人	高橋 宏幸		非常勤	4年 (1～5号 除く)
	2号	院長	1人	1人	齋藤 英樹		非常勤	
	3号	学校の長 (幼稚園園長を除く)	3人又は 4人	3人	佐野 新生 田部井 善郎 大江 敏江	○ ○ ○	常勤 常勤 常勤	
	4号	事務局長・理事会選任	1人	1人	—		常勤	
	5号	評議員互選・理事会選任	3人	3人	阿久津 小織 揚石 洋子 國廣 陽子		非常勤 非常勤 非常勤	
	6号	同窓会推薦・理事会選任	1人	1人	後藤 滋子		非常勤	
	7号	学外有識者・理事会選任	4～6人	6人	糸魚川 順 飯島 匡夫 元田 充隆 中林 三平 養田 博	○ ○	非常勤 非常勤 非常勤 非常勤 常勤	
監事2人 (現員2人)		2人	2人	小島 憲道 小瀬垣 利幸		非常勤 非常勤	4年	

## 7. 評議員

評議員の当年度末(2019年3月31日現在)における状況

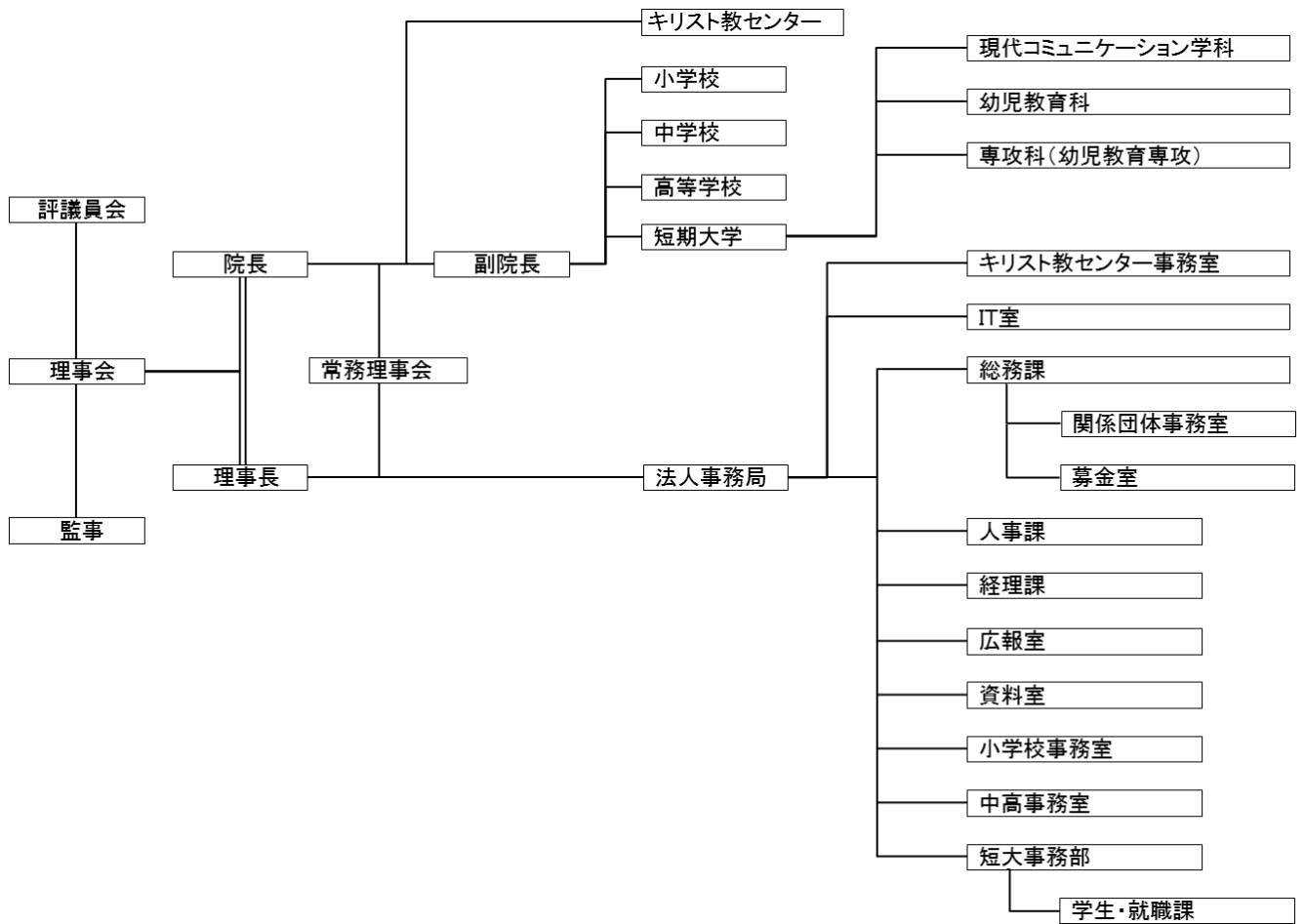
選任区分	定数	現員	氏名	任期	
1号	理事のうちから	1人	1人	元田 充隆	4年 (2～6号 除く)
2号	教区主教	1人	1人	高橋 宏幸	
3号	院長	1人	1人	齋藤 英樹	
4号	学校の長及び事務局長	4人又は5人	4人	佐野 新生 田部井 善郎 大江 敏江 養田 博	
5号	教頭及び総務部長	4人	4人	吉田 太郎 山岸 悦子 浅香 美音子 萩原 滋	
6号	チャプレン	1人又は2人	1人	鈴木 裕二	
7号	専任教職員互選	6人	6人	渡辺 明子 川越 敏正 佐々木 英子 有満 麻美子 毛利 みはる 八城 元	
8号	同窓会推薦	5人以上 8人以内	7人	後藤 滋子 渡瀬 美南 岡本 恵美 子 柳澤 由紀子 野秋 啓子 佐々 義子 重松 れい子	
9号	学外有識者	6人又は7人	7人	揚石 洋子 光谷 和子 阿久津 小織 永濱 光弘 國廣 陽子 山倉文幸 川戸 れい子	

## 8. 会議

2018年4月1日～2019年3月31日の間

理事会		評議員会	常務理事会		
第 521 回	4 月 2 日 (月)		第 01 回	4 月 11 日 (水)	
第 522 回	5 月 21 日 (月)		第 02 回	5 月 15 日 (火)	
第 523 回	5 月 30 日 (水) ①	第 338 回	5 月 30 日 (水)	第 03 回	5 月 24 日 (木)
第 524 回	5 月 30 日 (水) ②			第 04 回	6 月 6 日 (水)
第 525 回	6 月 21 日 (木)			第 05 回	6 月 21 日 (木)
第 526 回	7 月 19 日 (木)			第 06 回	7 月 4 日 (水)
第 527 回	9 月 6 日 (木)			第 07 回	7 月 19 日 (木)
第 528 回	9 月 20 日 (木)			第 08 回	9 月 5 日 (水)
第 529 回	10 月 22 日 (月)			第 09 回	9 月 18 日 (火)
第 530 回	11 月 22 日 (木)			第 10 回	10 月 9 日 (火)
第 531 回	12 月 13 日 (木)	第 339 回	12 月 13 日 (木)	第 11 回	10 月 22 日 (月)
第 532 回	1 月 24 日 (木)			第 12 回	11 月 8 日 (木)
第 533 回	2 月 21 日 (木)			第 13 回	11 月 22 日 (木)
第 534 回	3 月 27 日 (水) ①	第 340 回	3 月 27 日 (水)	第 14 回	12 月 6 日 (木)
第 535 回	3 月 27 日 (水) ②			第 15 回	12 月 13 日 (木)
				第 16 回	1 月 16 日 (水)
				第 17 回	2 月 6 日 (水)
				第 18 回	2 月 21 日 (木)
				第 19 回	3 月 19 日 (火)

9. 組織図 (2019年4月1日より変更)



## II. 事業の概要

### [基本政策方針]

主な事業計画

- (1)教育・研究の質的向上
- (2)教育環境の整備
- (3)予算の有効活用・支出削減の努力
- (4)収入増への取組み

### [事業の進捗状況]

#### i. 短期大学

2018 年度、短期大学は専攻科のみ入学生を迎えた。「教育の質」と「学生支援の充実」を維持しつつ、2019 年度中に在学学生全員が修了・卒業できるように、様々な課題を検討し、準備を進めた。

#### 【2018 年度の重点施策】

##### 1. 円滑な学校閉鎖に向けた教育体制の整備

###### (1)最低修業年限で卒業・修了できる授業時間の設定

###### (2)最低修業年限で卒業・修了できる履修の設定

- ・2018 年度は正規の 2 年次生が在学中のため、授業時間や履修制度について特別措置は行わず、通常と同じ体制で運営した。
- ・不合格科目があり卒業要件単位を充足できない 2 年次生に対して、従来から単位再認定のため、受験科目数の制限などを定めて不合格科目の特別試験を実施していた。2018 年度はその受験資格の制限を緩めて、受験対象を広げた。

[2019 年度対応]

- ・2019 年度幼児教育科在籍予定者に対し、専攻科の科目等履修生の資格「短期大学卒業生またはこれに準ずるもの」を適用し、保育士試験(幼稚園教諭免許所有者)の筆記試験免除科目に対応する専攻科科目の科目等履修を認めることを決定した。これにより、2020 年度専攻科試験を実施しなくても 2019 年度中に保育士関連科目の受講が可能となった。
- ・2018 年度前期の科目修得状況および 2018 年度休学者に提出させた「復学後履修希望調査」等を分析・検討して、2019 年度に開講すべき科目について 9 月教授会で審議を開始し、12 月までに 2019 年度開講科目、担当教員を決定した。
- ・2019 年度は授業出席回数が 3 分の 2 以上に達しない恐れのある学生に対し、集中授業や時間割に定められた曜日・時限以外での授業実施、連続授業などの特別措置を講ずることを決めた。
- ・2019 年度の学事暦は専攻科主体に設定し、本科は専攻科に準じる日程とした。
- ・学生が少人数になり開講科目数が減少したこと並びに通学に片道 2 時間以上かかる学生のことなど考慮し、時間割は I 限、土曜日を避けて編成した。
- ・立教大学との単位互換制度は継続する。

###### (3)教育に必要な教員数の確保

- ・必修科目等学科の基礎となる科目は専任教員が担当し、その他の科目は専任教員と非常勤教員をバランスよく配置し、卒業および免許・資格取得に必要な科目を開講した。

[2019 年度対応]

- ・現代コミュニケーション学科教員は開講科目により限定し、幼児教育科教員は専攻科があるので 2018 年度と同様の教員数とする。
- ・2019 年度に開講する科目は大幅に減少するので、基本として開講科目は専任教員が担当する。科目によって専任教員では担当が難しい科目に限って非常勤教員が担当する。

##### 2. 円滑な学校閉鎖に向けた履修指導等授業関係サポート体制の整備

###### (1)卒業・修了に向けたアドバイザー指導の徹底

- ・2018 年度中の卒業を目指し、授業出席の喚起や大学の支援状況について再度確認するため、保証人会を

実施した。特に、出席状況の良くない学生の保証人宛に、保証人会への出席を強く依頼した。この結果、前期 18 名、後期 20 名の保証人が出席した。

- ・前期終了時点で、2018 年度留年確定の学生と卒業が困難と思われる学生約 25 名に対して、後期開始前後に保証人に同席を依頼し、面談を実施した。
- ・幼児教育科の留年確定学生 9 名に対して、2019 年 2 月～4 月に面談を行い、教職免許および保育士資格を取得する有無の意思確認を行った。その結果、卒業のみを目指す者 4 名、卒業・教職免許取得・保育士科目等履修を目指す者 3 名、卒業・教職免許取得 2 名を目指す者であることを確認した。
- ・専攻科科目等履修希望と 2020 年度専攻科進学なしの確認書を提出させた。これにより、2020 年度の専攻科の募集は行わないことにする。
- ・留学からの復学者を除く 2019 年度留年生全員に、2019 年度卒業を目指して学修するという「学修意思確認書」を提出させた。なお、留学からの復学者には 2019 年度 4 月に提出させる。

## (2)履修指導・授業出席管理等の事務サポート体制の整備

- ・2017 年度同様、必修科目の科目担当教員は、欠席が続く学生の情報を教務課に連絡し、教務課はアドバイザーに連絡するという流れを徹底し、授業出席情報を共有した。
- ・後期は選択科目についても出欠状況を担当者から教務課に連絡し、授業出席情報の共有化を徹底した。
- ・履修登録期間終了後、卒業要件に満たない学生を呼び出して履修指導を実施した。
- ・2017 年度に作成した「全員卒業に向けたスケジュール」に沿って、学生をサポートする日程や流れを確定した。
- ・短大全学生の学籍・履修の状況などをまとめた「2018 年度在籍の全学生リスト」を定期的に更新し、教職員で情報を共有した。

[成果]

- ・休学、留学、学費延滞、単位取得、欠席情報など全学生の状況を、学長、教員、職員相互で情報共有でき、卒業に問題が生じる可能性のある学生の履修指導に繋げることができた。

## 3. 学生少数期の学生サポート体制の整備

### (1)就職内定率維持に向けた就職指導の実施

- ・2018 年度は、2 年生向けに前年度同様の就職関連講座を実施し、キャリアカウンセラー 2 名とジョブサポーター 2 名の派遣を加えて学生の就職支援を行った。就職希望者 214 名の内、209 名が内定を獲得した。就職率は 97.7%。
- ・2019 年度卒業予定者の就職サポートとして、学校推薦企業を中心に 9 社訪問し、企業人事担当者との連携強化に努めた。

[2019 年度対応]

- ・2019 年度在学予定者(復学者を含む)の就職活動支援として 2 月末に「就職直前セミナー」を実施した。
- ・2019 年度は引き続き、キャリアカウンセラー 1 名を週 2 回の体制で就職活動支援を行う。
- ・就職支援として、2018 年度と同様に企業就職ガイダンスを実施すると共に、就職支援講座(公務員試験対策講座、幼保系就職講座、保育士就職模擬試験)を実施する。

### (2)学園祭など各行事の実施援助

- ・2018 年度は、学園祭を始めとする各行事とも例年どおり実施した。

[2019 年度対応]

- ・2019 年度は、学友会活動および学園祭は行わないこと、早朝礼拝を夕の礼拝に変更することを決めた。部活動については、学生の意向に基づいて決定することとし、2 つのクラブが活動継続予定となった。

## 4. 授業、学生生活支援に必要な校舎・教室等の整備

### (1)必要最低限の補修・改修計画の立案

- ・2018 年度は、給水ポンプユニット交換工事、消化水槽配管改修工事、2 教室の照明更新工事など必要最低限の補修・改修を実施した。

### (2)2019 年度以降の教室・設備等の利用環境策定

- ・2019 年度の校舎・教室・施設等の利用は、2018 年度と同じ対応とし、2019 年度前期の状況をみて変更する。
- ・専攻科の授業・セミナー等で、天使園の園舎・園庭を使用する。



## 5. 2019年度以降の短大運営体制の整備

### (1)短大事務組織の再編成(短大事務部の業務分掌の整備)

#### (2)事務体制のフラット化(連携・協力体制の強化)

- ・2019 年度に向けて、年度末に教務課と学生・就職課の間のキャビネットを撤去し、短大事務室をワンフロアにした。

〔成果〕

- ・短大事務部が一つの事務室になったことにより、短大業務が連携し協力して業務を遂行できる体制となった。

### (3)図書館、学生相談室、保健室、ラーニングサポートセンター、学食等の附属施設のあり方検討

- ・2018 年度は従来どおりとし、ラーニングサポートセンターと幼児教育研究所は 2018 年度末で閉鎖した。
- ・パソコン教室 1 室を 2018 年度末で閉鎖した。

〔2019 年度対応〕

- ・図書館は、平日の開館時間を短縮し土曜日は閉館する。図書館資料の保存・処分方針を決定する。
- ・学生相談室は、担当者 1 名とし、週 1 日開室する。
- ・保健室は専任職員のみで対応し、土曜日は閉室する。
- ・学食は例年通り営業する。2020 年度以降の営業の有無を法人が決定する。

## 6. 短大閉鎖後の卒業生サポート体制の準備

### (1)閉鎖後の証明書発行、短大問合せなど短大事務体制の準備

- ・証明書発行のために卒業生基本データの整備をはじめた。
- ・閉鎖後の証明書発行準備のため、教務システムに、成績証明書を Excel でダウンロードできる機能を追加した。

### (2)卒業生の学籍・成績などの保管・管理体制の準備

### (3)短大保存文書

- ・保存・廃棄の区別ができるように書類を調査した。
- ・今後、保存場所を決定し、保存すべき文書をまとめる。

〔2019 年度対応〕

- ・(1)(2)(3)について、担当部署、人員、最終保存場所など法人での検討・決定が必要となる。

## 7. 短大の開学50年の歴史や意義を残すための具体案の検討と準備

### (1)「短大 50 年史」「短大 50 年モニュメント」など具体案の決定・準備

- ・記念誌編集委員会を設置して検討を行い、ホームページの一つのコンテンツとして短期大学 50 年の歩みを残すことを決めた。一次原稿(歩み本文、年表)を作成し、特集テーマを選定した。
- ・短期大学卒業生の会がモニュメント設置を希望している。設置場所等具体的なことは、2019 年度中に短期大学卒業生の会と調整を行う。

## 8. その他

### (1)短期大学閉学関連行事

- ・短期大学感謝礼拝を 2019 年 10 月 19 日に実施すること、卒業生向けに短大施設見学会(施設開放日)を設定することを決定した。

## ii. 中学校・高等学校

### 1. 学校運営

キリスト教学校として、毎朝の礼拝を大切に、また変化する時代の中で生徒の能力を最大限引き出せるような教育を実践した。2018年度は、前年からの継続課題であった今後の学校運営のあり方を再度検討し、例えば、教員会の開催時刻を早めるなど一部可能なものから実施に着手した。また教科によっては2021年度以降の新教育課程への対応に着手した。並びに新大学入試制度への対応は継続実施した。施設設備としては聖マーガレット礼拝堂・高校校舎・講堂等の改修に関連して、業者による現状並びに改修箇所の確認作業を行い、次年度以降より詳細な工事計画案を作成することとした。

### 2. 教育内容の充実

#### (1)理数系授業の充実

理科教員を中心とし、以下のプログラムを実施した。

表1 理科・高大連携・産学連携プログラム一覧

月	連携先	対象	内容
2018年1月	経済産業省	高3 特別講座	第4次産業革命と社会人基礎力 ～現代に必要な社会人基礎力とは何か～
2月	EARTHRISE 小畑星子氏	高1・高2 特別講座	Ethical Jewelry について ～社会貢献活動とは～
3月	保育園で科学ショー	高3 特別講座	保育園児に向けて理科の実験ショーを実施した。
	化粧品を科学する講座	高3 特別講座	化粧の正しい方法や物質としての理解を深めた。
	プログラミング講座	高1・高2 希望者	日本ビジネスシステム株式会社椎野磨美氏による IT&プログラミング講座を実施した。
6月	東京農工大学	高2 理系	工学部清水美穂研究室を訪問し、心筋細胞を見せて頂いたり理系の研究とは何かを教えて頂いた。
7月	東京パワーテクノロジー	高2 文Ⅱ 生物基礎	薔薇の地植え体験講座
	HoloLens	高2 文Ⅱ 生物基礎	次世代の教育とは何か Microsoft HoloLens を活用した授業
8月	理系化学演習講座	高2 理系	高2 理系を対象に化学の補習を行った。
10月	ナプテスコ株式会社	高1 希望者	ヒューマンエラーをなくせ。
10月	北海道漁業協同組合連合会	高2 文Ⅱ 生物基礎	ホタテと秋鮭の解剖とPBL
11月	北海道漁業協同組合連合会	高2 文Ⅱ 生物基礎	ホタテと秋鮭の美味しい食べ方と食育
2019年1月	立教大学	中2 理科(化学)	立教大学理学部化学科森本先生による出張授業
1月	官公学生服株式会社(Kanko)	高3 特別講座	使わなくなった制服をどうするか。SDGs の観点を含めて新しい提案をする。
2月	化粧品を科学しよう ～資生堂～	高3 特別講座	資生堂の方を招いて正しい洗顔や化粧の方法を学ぶ講座
3月	熊谷組	高1・高2 希望者	キャリア教育の一環として外構工事を体験し、建設業で使われているセメントやコンクリートなどの化学物質の理解を深めた。

#### 【評価】

生徒に理数系等の授業に興味関心をもたせ、さらに大学や社会とのつながりの中で学習への意識を高めるため、東京農工大学をはじめとする大学の研究室訪問や企業との連携・協働学習を実施した。また立教女学院小学校との連携教育を通じて、生徒が主体的能動的対話的に学び考える教育(アクティブラーニング教育)を実践した。継続的にプログラムを実施してきたことにより、幅広い視野を身につけることができ、高校卒業後の進路選択における志望動機の明確化につながった。

#### (2)英語教育の充実

多くの英語科教員が iPad を持ち、授業の改善や工夫に取り組んだ。授業以外にも、実力テスト(高校3年生)の実施、長期休暇中課題・指名補習、GTEC 及び TOEIC の実施、進路決定者へのコンピュータを使つての TOEIC 英検 2 次対策等に取り組んだ。継続事業としては、中学および高校それぞれでのスピーチコンテストとレシテーションコンテスト、中学生(主に帰国生)を対象としたネイティブによる特別課外授業を行った。

【評価】

上記の取り組みを積極的に推進したことによって、生徒の 4 技能の向上がみられた。また、大学入試改革への早期対応ともなった。

(3)国際理解教育の充実

次の取組を実施した。

表 2 国際理解教育プログラム一覧

プログラム名	形態	国名	人数	備考
長期留学受入れプログラム	受入れ	アメリカ	1名	8月31日來日(約10ヶ月)。St. Stephen's Episcopal High School(SSES)
単期留学受入れプログラム	受入れ	フィリピン	2名	10月20日～30日。Trinity University of Asia High School
長期留学派遣プログラム	渡航	アメリカ	1名	SSES(約9ヶ月)
		ニュージールランド	1名	St. Margaret's College(約8ヶ月)
			1名	Queen Margaret College(約8ヶ月)
短期留学派遣プログラム	渡航	フィリピン	8名	Trinity。応募者12名より選抜。出発前に生徒勉強会(3回)と保護者会(1回)を実施。
Youth Program ～UC Davis～	渡航	アメリカ	20名	8月4日～14日。カリフォルニア大学デービス校で生命科学などの最先端の研究に触れ、世界トップクラスの学びを体験。
エンパワーメントプログラム	受入れ	アメリカ等	55名 中3-27名 高1-23名 高2-5名	7月30日～8月3日。海外の大学生を校内に招き、英語でディスカッションやミニプロジェクトを少人数グループ(生徒5～6人)で実施。
サマーイングリッシュプログラム	—	—	150名 中1-120名 中2-30名	7月31日～8月3日。外国人講師による少人数グループでの英語訓練プログラム。
SMIS	—	—	28名(交流) 14名(教育)	世界の隣人とどのように手を取り合っていくことができるか。また平和を作り出す者へと成長するために、校外の団体とも協同し、具体的な活動を通して学ぶことを目的としている。国際交流グループと国際教育グループの2つのグループに分かれて活動した。 ・第2回全国高校教育模擬国連大会参加(教育) ・第5回玉川学園模擬国連会議参加(教育) ・「届けよう服のチカラ」プロジェクト参加(交流・教育)
SMSとの連携 (アメリカ)	米国ヴァージニア州 St.Margaret's School と短期交換留学プログラムを2019年度より実施することで合意した。			

【評価】

中1から高2までのプログラムが構築されたことにより、各学年での生徒の成長を確認できるようになった。また生徒自身がお互いに刺激し合える状況となり、プログラムの質も年々向上してきている。

単に英語の能力を高めるだけでなく、自己理解や自己啓発につながり、学習全般への取り組みの深まりやリーダーシップの向上等の効果が明確になってきた。

異文化理解の機会を増やすため、新たに米国の St.Margaret's School を姉妹校とし、2019年度より短期交換留学プログラムを実施することとした。

(4)平和教育の促進

中3での長崎修学旅行および高2での沖縄修学旅行を平和学習として継続的に実施してきた。また、土曜集会においては、中学校は「隣人を大切に平和な社会をつくらう」、高校では「広く世界に目を向けて、人間性を豊かにしよう」のテーマのもと、各10回のプログラムを実施した。

【評価】

上記のことを通じ、過去を記憶し、その責任を認識することによって、キリスト教学校として世界に向けて貢献できることを確認した。

(5)教職員の質の向上

教職員の自己研鑽および新たな刺激を得ることにより、よりよい教育活動に反映できるよう、様々な研修会や勉強会等に参加した。毎年8月に行っている教員研修会では、生徒の生活指導と危機管理について教職員でグループに別れて話し合いを行い、今後の方向性についての共通理解を図り、指導についての具体策を練った。

## 【評価】

研修会等で問題意識を共有したことにより、生徒指導と危機管理に対しての教員の意識が高まった。  
今後も継続して議論を深めて行くことを確認した。

### (6)入試広報活動の強化

#### 1)公開行事実施報告

##### ①ミニ学校説明会

5月16日、5月23日、6月16日、7月4日の計4回実施 合計909名(689組)参加

##### ②学校体験日(St.Margaret's Learning day)6月30日

・受験生が本校授業や生徒と触れ合う機会となった。

##### ③学校説明会(一般生・帰国生対象)

第1回:9月22日、第2回:11月10日 合計1590名(950組)参加

##### ④生徒会による学校説明会 7月14日 604名(278組)

・高校生徒会が日頃の自治活動を披露する機会となった。

##### ⑤帰国生対象学校説明会 7月27日 137名(80組)

##### ⑥クリスマス礼拝 12月15日

・5・6年生対象予約制。250組、500名は早い時期に予約が一杯となった。

##### ⑦高3卒論発表会 3月16日

・参加者 受験生 170名(96組)

・内容は高3プレゼン2名、卒業生1名(社会人)、高3生によるミニ学校紹介。

本校独自のARE学習の成果を、紹介する機会となった。

#### 2)塾対象説明会 5月22日

・参加者 92名

今年のトピックス「大学入試改革と立教女学院の進路指導」

#### 3)塾主催学校説明会

例年どおり、本校を会場とし塾主催保護者対象説明会を実施した。

6月6日 栄光ゼミナール 6月11日 市進 6月13日 サピックス 6月20日 四谷大塚

#### 4)学外企画学校説明会

①5月20日(日) 東京私学中学校合同相談会 有楽町国際フォーラム

②6月03日(日) ベネッセ進学フェア2017

③6月08日(金) 日能研保護者対象 吉祥寺校

④6月12日(火) 日能研保護者対象 明大前校

⑤6月17日(日) 声の教育社「受験なんでも相談会」新宿 NSビル

⑥6月24日(日) 日能研学校フェア2017 青山学院大学

⑦7月11日(水) 日能研保護者対象 八王子校

⑧7月17日(火) ena 代々木校 帰国対象説明会

⑨7月18日(水) 希学園 目黒校

⑩7月18日(水) 日能研保護者対象 成城学園前校

⑪7月19日(木) 日能研保護者対象 大宮校

⑫7月21日(土) 早稲田アカデミー

⑬7月28日(土) 海外・帰国生進学相談会(JOBA) ベルサール汐留

⑭7月28日(土) キリスト教学校フェア 銀座教会

⑮8月02日(火) 帰国生のための相談会(海外子女教育振興財団)

⑯8月18日(土)・19日(日) 東京都私立学校展2017 国際フォーラム

⑰3月21日(木祝) キリスト教学校合同フェア 青山学院高等部校舎

#### 5)2019年度入試結果

出願者数 一般入試 338名

帰国入試 70名

立教女学院小学校からの入学者 66名

## 【評価】

### ①一般入試

・東京都では、小6人口が昨年より+10,000人、そのうち約20%が私学に進学するとされているので、

受験人口が+2,000人の中で行われた入試であった。

- ・説明会や公開行事への来校者数は多く、出願者数は16%増となった。実倍率で2倍以上の入試となった。

## ②帰国生入試

- ・すでに帰国して日本の小学校に通っている者は塾に通い、2/1 から開始される一般入試も受験する傾向にある。帰国生入試の状況が変化してきている。
- ・合格後の辞退率は低下し、第1希望率が増加したと考えられる。

## 3. 教育環境および施設設備等の充実

耐用年数が経過したコンピュータ教室の生徒用ノートPCを授業の実習内容に即した機能を持つものに更新した。また、教員用タブレット端末を導入し、デジタル教科書への対応やディスプレイを有効活用した授業を行った教科もあった。

### iii. 小学校

#### 1. 学校運営

本学院の建学の理念である「キリストに基づく人間教育」を根幹に据え、変化する時代の中で児童の能力を最大限に引き出すことを念頭に置き、2018年度も様々な教育活動を展開した。

天使園の最終学年となり、年長学年のみの運営を行う天使園の行事に小学生有志が参加したり、小学校の運動会の種目に天使園児を招いたりして、天使園児に良い思い出ができるように、小学校として協力した。

校舎内の美化、校内の観葉植物の充実、玄関回りの花壇の丁寧な管理などにも心がけ、花と緑の溢れる美しい学校環境を整えることにも心がけた。

#### 【評価】

上記内容に関しては概ね満足できる実施状況であった。

一方、以下の各項目については、今後も検討が必要である。

- ・入試広報の検討

- ・教員確保・勤務体制

育児や介護などで休業や短時間勤務が必要な教員が複数となった場合の対応方法等

- ・授業料、給食費等の学納金の検討

- ・小学校としての将来構想の検討

中長期的視点に立った将来構想についての検討

- ・2021年に創立90周年を迎える小学校の周年行事の検討

#### 2. 教育内容の充実

##### (1)キリスト教に基づく人間教育の重視

毎朝の礼拝に児童と教員が参加するだけでなく、学校でのあらゆる活動場面において、キリスト教の示す隣人愛の精神をもって他者と交わり他者を大切にすることに心がけるよう、折に触れて様々な場面で教員にも児童にも働きかけてきた。

#### 【評価】

キリスト教が示す隣人愛の精神の上に全ての教育活動を行っていくことが本校の使命であることを全教職員がよく理解し、御旨に叶う行いを為そうと心がけていると感じている。教職員は、毎日の朝礼での祈りや礼拝への参加によって日々心を新たにし、建学の精神や学校の目標を思い起こし、穏やかで安定した気持ちで子どもや保護者と接することを心がけてきた。教員会等での話し合いによる意志決定の際には、御旨に叶うものかどうか、という視点も必ず含めて検討してきたつもりであるが、これからも全教職員がこの視点を大切に、謙遜な心で神に祈り、正しい方向を求めていくことを大切にしていきたい。各学年、クラスでの日々の営みの中でも常に心がけていきたい。

##### (2)基礎学力の向上

丁寧な児童の実態の把握をもとに、計画的に授業を準備し、確実な評価活動を通じて反省点を明確にし、よりよい授業展開に心がけるよう教員に指示した。確実な定着が必要な計算の技能や漢字の書き取り、様々な暗記項目等々に関しては、保護者の協力も得ながら家庭での学習を確実に行うことが必要であることを保護者にも説明し協力を得てきた。

高学年では主要4教科の問題集を選定し、その学年で学ぶべき内容を網羅的に学習できる体制を整えた。5年生・6年生では、学習内容の定着に時間がかかる子に向けてフォローアップタイムという名称の補習の時間を設け、基礎学力の確実な定着を目指した。

専任教員は校内の国語科・算数科のいずれかの研究会に属し、授業展開能力の向上のためにお互いの授業を見て意見交換を行い、校内研修日には教科毎の研究活動や研究授業への参加も行った。日本私立小学校連合会や東京私立初等学校協会の主催する教員研修会にも積極的に参加し、教員としての能力の向上に向けて努力した。

#### 【評価】

基礎学力の向上、という課題に向けて教職員が一致して努力を続けてきた。

教員側の指導力の向上、保護者側の協力、本人の意識、教材の吟味等様々な要素を考慮し、学習内

容の定着に時間がかかる児童の状況を改善するためには、今後も努力を続ける必要がある。各学年毎にきちんと定着させる内容を教員側が共通認識して取り組むこと、テスト結果を生かした分析や対応策の検討、等々についても、より方法を洗練させる必要がある。

学習障害、発達障害等の要因が絡む場合があるので、今後も学校カウンセラーや認知行動療法の専門家等からのアドバイスを受け、個々の実情に応じ適切な対応策を注意深く講じていく必要がある。

本校教員は自らの力量を向上させようとする意志を持って日々努力を続けており、嬉しく感じている。教員の力量を高めるための校内での研修活動の開催、学校外の研修活動への参加の奨励等もこれまで同様、可能な限り行っていきたい。

### (3)英語教育の充実

本校での英語の授業は3年生から開始されていたが、2018年度より1年生から英語の授業を導入し、新たなカリキュラムを整備した。1・2年生では母語である国語の学習にも十分な時間をかける必要があるため、初年度となった2018年度は隔週1時間程度の実施としたが、学習指導要領は3年生からの外国語学習を要求しており、本校の現状は学習指導要領の要求を上回っている。

#### 【評価】

ネイティブ教員3名と日本人1名の体制で、クラスの人数を半分に分け、少人数できめ細かく良質の授業展開を行うことができた。

今年度から開始した低学年の英語の実施授業数は週1時間程度と少ないので、英語の能力を大きく向上させるまでには至らないが、より低い年齢層から英語に親しませることで、英語は楽しいものだと感じさせ、今後の英語の学習に意欲的に取り組もうとするよいきっかけを与えることにつながった。

私立小学校ではすでに1年生から英語の授業を行っている学校も多くあり、本校ならではの英語教育の充実発展は今後も重要な課題である。今後、1年生～6年生までのカリキュラムの見直し、女学院中学校の英語教育との連携等についてさらなる検討が必要であると考えている。来年度は、本校英語科内での検討協議に加えて、中学校英語科との話し合いなども行っていきたい。

### (4)理数系教育の充実

理数系教育の充実にはICT、AI、IoT等の急速な進展の時代を迎え、小学校段階からの重要な社会的要請となってきた。

2018年度は、理科の専科教員2名が3年生以上の全ての授業を原則2名によるTTで行うこととし、きめ細かな指導を行った。

また、算数の指導においては、4年生以上の学年で全ての算数の授業をTTまたはクラスを分割した少人数での実施とし、児童の実態や指導内容に応じてより適した指導形態を選択するようになった。

#### 【評価】

理科の授業を2名で担当する、という原則を設けたことで、授業の準備・後片付け等の実務の負担がお互いに軽減された。また、授業で扱う教材や教具をより安全確実に取り扱わせることや、実験のプロセスを周知させ正確に実施させることにも効果があり、授業への児童の集中度も高まりより確実な理解が得られることにもつながっている。教員2名が打ち合わせを経て授業を準備し、よい授業を実施するために協力し、授業展開後の反省を次の授業に生かしていく、という一連の過程を共有することで、双方の教員が授業展開能力や児童の把握力を向上させる効果も得られた。

高学年算数の少人数指導やTTの実施の際にも、担当教員同士の事前の相談が必要となるが、その相談を経て授業を実施し、授業後も情報交換や反省点の検討を行うことによって、授業の質を高め、よりわかりやすく魅力のある授業を展開することにつながってきたものと考えられる。

理解に時間のかかる特定の数名に対する対応の方法、TTや少人数指導、習熟度別指導等を、どの単元のどのような学習の場面で使い分けることが効果的か、等々、客観的な評価結果をもとにしてさらに検討していくことが必要である。また、打ち合わせや授業後の反省等が教員にとって過度の負担にならないように工夫していくことも必要である。

### (5)Well Learning Project 関連

子どもが「学びたい」親が「学ばせたい」教師が「教えたい」と考え、皆が学びの意欲を持てる学校づくりを目指し、2014年度からWell Learning構想を掲げ、取り組んでいる。この構想での4つの柱は以下の通りである。

- ・Green Lab 自然や生き物に直接触れる、出会う体験を大切にする取り組み。
- ・Blue Lab ICTを活用したプログラミングやものづくりを実現する取り組み。
- ・Active Learning 主体的な学び、深い学びの機会を実現するための様々な取り組み。
- ・Global Education 国際理解、国際交流、人権意識、奉仕の精神を涵養する取り組み。

2018年度は従来からの活動に加え、Global 領域の新機軸として、豪州東海岸の聖公会系学校 Emmanuel Anglican College に本校児童が来訪し、ホームステイを行う活動を開始した。海外の学校との交流プログラムは本校初の試みである。

#### 【評価】

Emmanuel Anglican College は、周囲の自然環境も素晴らしく治安も安定している場所にあり、日本語を学ぶ授業も開催されているほど非常に親日的で、学校施設・教育環境も良好である。物心共に豊かな保護者が支える聖公会系の私立学校である。このような理想的な学校との提携関係を作ることができて大変幸運であった。神の導きに心からの感謝を捧げたい。相手校とその保護者の誠実で心温まる様々な対応により、参加者の満足度は非常に高かった。

今後もプログラム、参加者選出方法等、様々な点から改善を加え、よりよい活動を展開したい。相手校から本校へのホームステイの受け入れ、更なる国際交流プログラムの導入等も、今後の検討課題である。

また、Blue Lab 方向でのプログラミング、ものづくり活動の導入等に関しても、来年度の実施に向けて検討を開始している。

### 3. 教育環境および施設設備等の充実

以下の内容を実施した。

- ・2000年の現校舎竣工時から使われていた5年生・6年生の机と椅子を新しい物に入れ替えた。
- ・廊下のワードローブ上の壁クロスの張り替え
- ・1年生、2年生教室へのプロジェクターの導入。
- ・器楽クラブ使用のバイオリンの購入、Ipad Mini 数台の追加購入
- ・外靴用1年生教室外側の下駄箱の設置
- ・礼拝堂で使用する多目的椅子の修繕

以下の内容は来年度に実施する予定である

- ・特別教室用防災ヘルメットの配備
- ・4年生の机と椅子の入れ替え
- ・体育館の高窓の修繕
- ・各教室ドアの更新



#### iv. 天使園

天使園最後の年、一学年 20 名の園児で始まる。

##### 1. 教育内容の充実

- ・キリスト教保育  
毎月曜日のチャペルでの礼拝と日々の朝の礼拝、帰りの集会を充実させ、祈ることによって、神様が近く感じられるように努力した。
- ・教師の連携  
教師は十分な連携の下、隔週の責任者を交代しながら、保育の充実を図った。
- ・少ない園児だからこそ、安全に留意した。(一人ひとりの面積が広がった)

##### 2. 少人数対策

- ・ことり組(未就園児のクラス)  
年 10 回計画し、園児と共に生活することによって、園児の成長を促す機会となった。
- ・祖父母との交流  
9 月に祖父母を招待し、楽しく一日を過ごしていただき、園児との交流の機会とした。
- ・ゆり組(修了児の保護者)  
ゆり組にも参加していただき、シェフズランチ、誕生会を充実させた。
- ・小学校との連携  
小学校の運動会に参加させていただいたり、学校犬を園に迎えたりして、交流を図った。

##### 3. 保護者との連携

- ・シェフズランチ、子育てセミナーなどを通して保護者の教育と子育て支援を行った。
- ・保護者面談の充実を図った。希望面談、個人面談を通して、当該園児の特徴、問題点を話し合う機会を多くもった。
- ・運動会、クリスマスなど行事に積極的に参加していただいた。

##### 4. 教育・研究面での連携

- ・幼児研究紀要に研究報告を行った。
- ・保育研究セミナーの学生による誕生会での保育実践。

##### 5. 感謝

立教女学院短期大学附属幼稚園 天使園は本年度をもって閉園となりました。今年一年間に寄せられた多くの方々、特に学内の諸学校のご協力に心から感謝します。少人数で、運動会はどうなるだろうと心配しましたが、たくさんの修了生、保護者が参加して下さって盛り上げて下さいました。

また、クリスマスでは、20 名の園児での生誕劇を見に来てくださる方は、と心配しましたが、100 人を越える方々が参集して下さいました。

3 月 23 日の「感謝の集い」は 400 人を越える人たちが参加して下さい、改めて、これまでの天使園の働きが大きかったことを知ることができました。

本当にありがとうございました。

## v. 学院

### 1. 経営等の取組

短期大学及び附属幼稚園天使園の 2018 年度入学者・入園者からの募集停止を実施したが、引き続き学院の教育の質の維持向上に資する予算の執行を行った。ただ、募集停止という大きな減収要因を踏まえ、財務は厳しい現実を示しており、無駄を出来るだけ廃し効率化についても検討した。

寄付金募集について、行政等の指導も踏まえ、後援会を廃止し、2018 年 1 月から法人が主体となる取扱いとするよう体制を整備した。寄付方法も多様にし、利便性の向上を図った。

業務の効率化・合理化を図るため、委託契約の見直し作業に着手した。

教学も含め経営に関する総合的な検討を引き続き行った。

### 2. キャンパスの整備

#### (1)主な工事

小学校空調設備改修工事(Ⅱ期)

講堂西側外灯ポール更新工事

坂下門横囲障改築工事

#### (2)その他業務

高等学校校舎・講堂・聖マーガレット礼拝堂・マーガレットホール他改修基本設計業務

坂下門横囲障設計業務

小学校体育館・グラウンド照明設備改修設計業務

私立学校省エネ設備等導入事業費助成金の申請及び交付

#### (3)中長期施設設備計画の策定

施設の現況等に関する資料の作成及び今後の整備に関する検討作業を行った。

#### (4)キャンパス緑化整備

園児・児童・生徒・学生や周辺地域の安全及び環境整備の観点から、年間を通して緑地管理を行った。

### 3. 寄付及び関係団体からの支援

個人及び団体・法人から総額 2,576 万円強の寄付があった。うち、同窓会から、210 万円、シニア藤の会から 70 万円が寄付された。

藤の会から総額 2,160 万円強の支援が各学校に対して行われた。

#### 【評価】

寄付金募集事業については、新たな枠組みを整備したことから、今後は、学院への理解をいただきながら募集事業の充実を図ることが課題である。施設の整備について検討作業を鋭意継続して具体的なとりまとめをする必要がある。

### III. 財務の概要

〈経年比較〉

立教女学院(法人全体)事業活動収支推移

(単位 百万円)

年度		2016			2017			2018			
学生生徒等数		学生生徒等(2365)			学生生徒等(2312)			学生生徒等(1964)			
専任教員数 専任職員数		専任教員(113)専任職員(34)			専任教員(112)専任職員(32)			専任教員(109)専任職員(32)			
教育活動収支	事業活動収入の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		学生生徒等納付金	2,022	69.2%	△ 4	1,906	70.0%	△ 116	1,544	65.8%	△ 362
手数料	40	1.4%	1	30	1.1%	△ 10	36	1.5%	6		
寄付金	150	5.1%	16	120	4.4%	△ 30	127	5.4%	7		
経常費等補助金	554	19.0%	27	534	19.6%	△ 20	489	20.9%	△ 45		
付随事業収入	55	1.9%	1	54	2.0%	△ 1	54	2.3%	0		
雑収入	100	3.4%	45	77	2.8%	△ 23	95	4.1%	18		
教育活動収入計		2,920	100.0%	85	2,721	100.0%	△ 199	2,345	100.0%	△ 376	
教育活動支出の部	事業活動支出の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		人件費	1,855	66.1%	43	1,758	68.2%	△ 97	1,786	69.3%	28
		教育研究経費	672	23.9%	△ 58	573	22.2%	△ 99	546	21.2%	△ 27
		経常経費	382	13.6%	△ 38	350	13.6%	△ 32	327	12.7%	△ 23
		減価償却額	290	10.3%	△ 20	223	8.7%	△ 67	219	8.5%	△ 4
		管理経費	276	9.8%	△ 15	246	9.5%	△ 30	244	9.5%	△ 2
		経常経費	254	9.1%	△ 22	224	8.7%	△ 30	223	8.7%	△ 1
		恩給・扶助料	5	0.2%	5	5	0.2%	0	5	0.2%	0
		減価償却額	17	0.6%	1	17	0.7%	0	16	0.6%	△ 1
		徴収不能額等	3	0.1%	3	1	0.0%	△ 2	0	0.0%	△ 1
教育活動支出計		2,806	100.0%	△ 27	2,577	100.0%	△ 229	2,576	100.0%	△ 1	
教育活動収支差額		114		112	144		30	△231		△ 375	
教育活動外収支	収入の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		受取利息・配当金	41	100.0%	1	39	100.0%	△ 2	30	100.0%	△ 9
		その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
	教育活動外収入計		41	100.0%	1	39	100.0%	△ 2	30	100.0%	△ 9
	支出の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		借入金等利息	12	100.0%	△ 3	9	100.0%	△ 3	6	100.0%	△ 3
その他の教育活動外支出		0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	
教育活動外支出計		12	100.0%	△ 3	9	100.0%	△ 3	6	100.0%	△ 3	
教育活動外収支差額		29		4	30		1	24		△ 6	
経常収支差額		144		117	174		30	△207		△ 381	
特別収支	収入の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		資産売却差額	0	0.0%	0	255	96.6%	255	0	0.0%	△ 255
		その他の特別収入	94	100.0%	72	10	3.8%	△ 84	24	100.0%	14
	特別収入計		94	100.0%	72	264	100.0%	170	24	100.0%	△ 240
	支出の部	科目	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比	決算額	構成比	前年比
		資産処分差額	3	100.0%	0	26	83.9%	23	2	100.0%	△ 24
その他の特別支出		0	0.0%	0	4	12.9%	4	0	0.0%	△ 4	
特別支出計		3	100.0%	0	31	100.0%	28	2	100.0%	△ 29	
特別収支差額		91		72	234		143	22		△ 212	
予備費		0		0	0		0	0		0	
基本金組入前当年度収支差額		235		189	407		172	△185		△ 592	
基本金組入額合計		△226		167	△135		91	△184		△ 49	
当年度収支差額		10		357	272		262	△369		△ 641	
前年度繰越収支差額		△1,552		△ 347	△1,543		9	△1,271		272	
基本金取崩額		0		0	0		0	0		0	
翌年度繰越収支差額		△1,543		9	△1,271		272	△1,639		△ 368	
事業活動収入計		3,055		158	3,024		△ 31	2,399		△ 625	
事業活動支出計		2,820		△ 31	2,617		△ 203	2,584		△ 33	
基本金組入後収支比率		99.7%			90.6%			116.7%			
学生生徒等納付金比率		68.3%			69.1%			65.0%			
人件費依存率		91.7%			92.2%			115.7%			

\*基本金組入後収支比率=事業活動支出÷(事業活動収入-基本金組入額)

学生生徒等納付金比率=学生生徒等納付金÷経常収入

人件費依存率=人件費÷学生生徒等納入金